

名古屋大学文学部・人文学研究科・文学研究科・国際言語文化研究科 2020年度 授業評価アンケートに基づく授業改善事例

- ・課題へのフィードバックが欲しいという意見があったので、学生の学期末課題に対してのフィードバックの量を増やした。
- ・今学期は全て Zoom を使ったオンライン授業を行った。Zoom の共有画面を使うと、パワーポイントが見やすくよかった。また、ブレイク機能を使うと少人数での議論ができました。前期に比べて学生もオンライン授業に慣れてきたようで、この授業はオンラインも有効に活用できると思いました。
- ・これまで、講義では学生に当てて答えさせながら授業を進めてきたが、今学期から Google スプレッドシートを使ったグループワークを実施した。与えられた課題に対し、グループに分かれて、答えを Google スプレッドシートに書いていく。そうすることで他のグループの議論も全員が見ることができる。これは非常に好評だった。講義であっても、学生が能動的に参加することがいかに大切かを感じた。オンライン授業になったことでできる新しいグループワークのあり方だと思う。
- ・NUCT「フォーラム」だけでなく zoom も取り入れて欲しいとの希望があり、秋学期は zoom を活用した。必要に応じてオンデマンド資料も作成し、画面共有によるレクチャーも平行して行った。zoom はブレイクアウトルーム機能があるため、グループディスカッションができたこともあり、受講生の発言も質が高く発言回数も 1 回の授業あたりひとり 3 回以上で、受講生の満足度は高かった。
- ・NUCT、Zoom、メーリングリストを併用した古典文献講読の授業。討論を活発にするため、毎回の授業担当者によるレジュメのアップロード締切を早め、それを読んだ上で発言するよう促した。事前にメーリングリストの方に質問や意見を投稿することも奨励した。
- ・授業アンケートで授業中に話す機会があった方がよいということが書かれていたので、授業中に発言する機会を与えるようにした。
- ・授業アンケートで授業内容を理解できているのか不安だということが書かれていたので、毎授業の後で小テストをし、その次の週にフィードバックを与えることにした。
- ・英語での日本美術史の論文の購読であるが、特に中国人画家の英語表記による人名を漢字に変換する方法が分からないとの要請があったので、米国で出版された中国画家辞典や適切な WEBSITE について紹介し、利用の仕方を指導した。
- ・対面授業が実施できなくなった際、ZOOM のよいところを活用し、参照すべき史料の画像を多く共有しながら授業を進めた。
- ・授業アンケートで「コロナで図書館・資料室等が使用しづらく困っている」という意見が出たため、後期には教員手持ちの資料をできるだけ多く提供しつつ授業を行った。
- ・授業実施時に行ったアンケートで、オンデマンドを要望する声が多かったため、オンデマ

ンドで授業を実施した。繰り返し解説を聞けるため、学習効果が高くなったように思うとの意見が数名より上がった。

- ・意見に基づき、オンライン授業がより効果的になるように、配付資料の追加、改善を行った。
- ・意見に基づき、オンライン授業から対面授業に切り替える際に、板書事項を充実させた。
- ・オンデマンド動画配信での授業となったため、通常は輪読で文献講読を行っていたが、今年度は毎回の授業の前日までに予習ノートを提出してもらい、それを踏まえて解説動画を配信することにした。これにより、対面形式では予習をせずに参加して教室で座っているだけの学生があらほらいたが、みなしっかりと毎週毎週の予習を実施するようになった。
- ・対面授業で行ってきた細かい指導が難しくなるため、今年度は急遽教科書を変更し、自習可能なテキスト（Teach Yourself シリーズ）を採用した。これにより、オンラインの授業で理解が追いつかないところは、テキストを熟読することによって理解を深めることができる。
- ・ディスカッションの時間を増やした方がいいという要望が出たため、ディスカッションの時間を増やし、受講者が積極的に意見を述べるような機会を増やした。
- ・春学期（遠隔開講）のアンケートで、NUCT の「フォーラム」機能をつかったコメントペーパーの回収、応答の共有が有益であったとの意見が多く、ひきつづき遠隔授業となった秋学期においても継続した。一方、NUCT 経由でコメントペーパーを出したいが、公開でなく個人的に提出したいという要望もあり、秋学期より、「課題」機能を使っの受け付けも併用することとした。学生はコメントや質問内容に応じて使い分けていたようである。
- ・大学院、学部共通の授業において、大学院生なら知っているが学部生は知らないことを、時間を長く取って説明したら、大学院生からこの部分で退屈してしまったという意見があったため、このような説明が長くならないように気をつけた。
- ・地元の考古遺跡を紹介する授業で、遺跡の現地に行ったことのないという学生が多いとのことで、土日等をもちいて補講形式で遺跡や博物館への引率をおこなったり、本年度はコロナ禍のため、私自身が遺跡の現地からの Zoom での中継授業をおこなった。
- ・ウェブ授業で学生が討論しやすいように、Zoom のブレイクアウトルームを活用した。Teams は共有ファイルの画面が見にくいので、Zoom を使うことにした。

以上